

# 未熟者

E・T 会社員（43歳）

平成26年のある日、時刻は午前1時ころ、私は取り返しのつかない事件を起こしてしまいました。

私は車を運転することが大好きで、公道を高速で車を走らせ、競い合うという漫画やアニメ。ゲームが好きでした。そして、いつも自分も速くて格好いい車に乗りたいという思いがありました。

事件前日の午後8時を過ぎたころ、車やアニメが好きで、小学校から高校までいつも一緒にいた親友から、私が購入したスポーツタイプの車を見たいという連絡が来ました。私も車を自慢したいという気持ちがあり、お互い仕事が終わった後で疲れているのにも関わらず、私は親友のもとへ向かいました。

親友と合流し、特にあてもなく、ドライブをしましたが、夜も遅くなり、親友も「次の日も仕事だから帰りたい」と言い出したため、帰宅することにしました。帰り道は交通量も少なく、走り慣れた道であることから、私は車を高速で走らせているうちにお互い気分が高揚してしまい、急な右カーブを大丈夫だろうと時速120kmで進入しました。

しかし、自車のコントロールを失い、カーブを曲がり切れず、ガードレールに衝突してしまいました。私は目を覚ますと、車は横になっており、身体はシートベルトに締めつけられていました。無我夢中で脱出しました。そして、すぐに親友を探そうと周りを見ると、道路の端の方に倒れていま

した。すぐさま胸に耳をあて、心臓が動いていたのを確認し、救急車を呼ぼうとしましたが、私はパニック状態だったため、自力で呼べず、偶然通り掛かった車を呼び止め、救急車を呼んでもらいました。救急車が来ると、先に私が運ばれなかったのを疑問に思いながら救急車に乗りました。

気が付くと、私は緊急手術室で手術を受けており、術後も気を失いました。次に目を覚ますと家族が私のもとにおり、家族も現実を受け止めていなかったと思います。その後、病室で家族に親友の事を聞いたら、「心の準備は出来ている？言うからね。亡くなったよ……」と言われ、私は頭の中が真っ白になるとともに、親友が救急車に運ばれなかったのは亡くなったからなのだと思うと、ショックで泣き出してしまい、入院中も事件の記憶や親友が夢に出てき

ました。

数日後、家族から親友の告別式に参加したという事を知らされました。数週間後に退院し、事件現場にお花を供え、ご遺族の自宅へ謝罪に向かいました。ご遺族は私を責めず、「逆の立場だとしたら、私達はどうすることも出来ない。やってしまったことは仕方ないから後は誠意を見せてください」と仰ってくださいました。

その後、私は警察に出頭し、逮捕されましたが、やがて保釈され、裁判まで毎月命日にご遺族の自宅と親友の墓前でお焼香をさせて頂きました。裁判では、懲役3年の判決が下り、1人の尊い命を奪ったのになった3年なのかとご遺族は思ったに違いありません。

所に服役している私よりも比較にならない苦しみをしているはずです。

受刑生活の開始から2年4ヶ月経ちますが、今までの家族が私の代わりにご遺族の自宅と親友の墓前に伺わせて頂いており、私の責任なのに関係のない家族まで迷惑を掛けています。

今回の事件のご遺族との示談は成立してはいますが、刑務所で改善指導を受け、ご遺族が私に掛けて下さった言葉もご遺族が私を許してくれているのだからと勘違いをしていることに気がきました。

ご遺族は私のことを許すはずはないので、これから私の出来る償いを続け、再犯をしないことを誓います。

「贖いの日々」第53集より  
抜粋

転載・二次使用を禁止します。